

高齢化と認知症に やさしいデザイン

英国と日本の取り組み

デザインを軸とした、国や文化を越えたコラボレーション。
誰もが住みよい社会を一緒に考えていきましょう。

UK-Japan
Network主催
基調講演

開始日時

10月29日(木) 18時~20時

オンラインにて開催 (参加無料)

*日本語同時通訳付き

参加方法

下記のQRコード、もしくはURLから申込み
いただけます。(Zoomでの配信を予定しています。)

参加申し込みURL：
<https://ukjapan.peatix.com/>



問い合わせ

株式会社メディヴァ (事務局)

デザインを通して認知症の方が幸せに暮らせる社会づくりを支援します。

メール：ukjapan.seminar@mediva.co.jp

演者紹介



英国スターリング大学
社会科学部学部長
社会学教授
アリソン・ボウズ氏

英国ダーラム大学社会文化人類学博士課程修了。
現在は、英国スターリング大学社会科学学部学部長、社会学教授。高齢者の経験、特に社会サポートに関連した分野についての研究に従事。最近では、高齢者をサポートするテクノロジーの利用、健康な加齢や認知症と共にある加齢のための身体活動の重要性、介護者ネットワーク、認知症の人のための環境デザインなどのテーマで研究に従事。



静岡大学
情報学部助教
石川翔吾氏

静岡大学創造科学技術大学院博士課程修了。
玉川大学脳科学研究所研究員等を経て現在に至る。人間の心身の状態を観察するシステムの開発やAIのモデルを使った人間と機械のインタラクションをデザインする研究に従事。当初は子どもの発達過程に着目して母子のコミュニケーションに着目していたが、獲得と喪失という双対の関係にある認知症の課題解決に取り組んでいる。介護や医療現場、本人や家族と一緒に考え課題解決する研究スタイルで人間中心の解決方法を模索している。



英国スターリング大学
認知症サービス開発センター
主席建築士
レスリー・パーマー氏

スターリング大学認知症サービス開発センターの首席建築士。スターリング大学が企業と共同開発した環境評価アプリケーションIrdisの共同開発者。建築の専門家として20年のキャリアがあり、認知症に優しいデザインの原則について指導や助言、建築プロジェクトを通じて認知症デザイン実用化に関するコンサルティングなど数々の国際的なプロジェクトの経験がある。



慶應義塾大学大学院
健康マネジメント研究科教授
堀田聡子氏

京都大学法学部卒業後、東京大学社会科学研究所特任准教授、オランダ・ユトレヒト大学訪問教授等を経て2017年4月より現職（認知症未来共創ハブリーダー）。地域包括ケアイノベーションフォーラム事務局・人とまちづくり研究所代表理事等として、地域包括ケア・地域共生社会、compassionate community、dementia friendly community等を手がかりに、より人間的で持続可能なケアと地域づくりに向けた移行の支援及び加速に取り組む。

プログラム

18:00 開会のご挨拶

樋口直美氏 (文筆家)

18:05 プレゼンテーション

「UK-Japan Networkのコラボレーションを通じた認知症デザインの研究と知識交換」アリソン・ボウズ氏

「現代の認知症フレンドリー建築 - 国際的なデザイン事例」

レスリー・パーマー氏

「認知症にやさしいソフトウェアデザイン - 希望に寄り添う技術 -」

石川翔吾氏

「認知症と共に生きる社会システムデザインの探索」堀田聡子氏

19:20 パネルディスカッション

アリソン・ボウズ氏、レスリー・パーマー氏、

石川翔吾氏、堀田聡子氏、乗竹亮治氏 (日本医療政策機構 理事・事務局長/CEO、モデレーター)

19:50 閉会のご挨拶

スティーブン・ベイカー氏 (スコットランド国際開発庁)